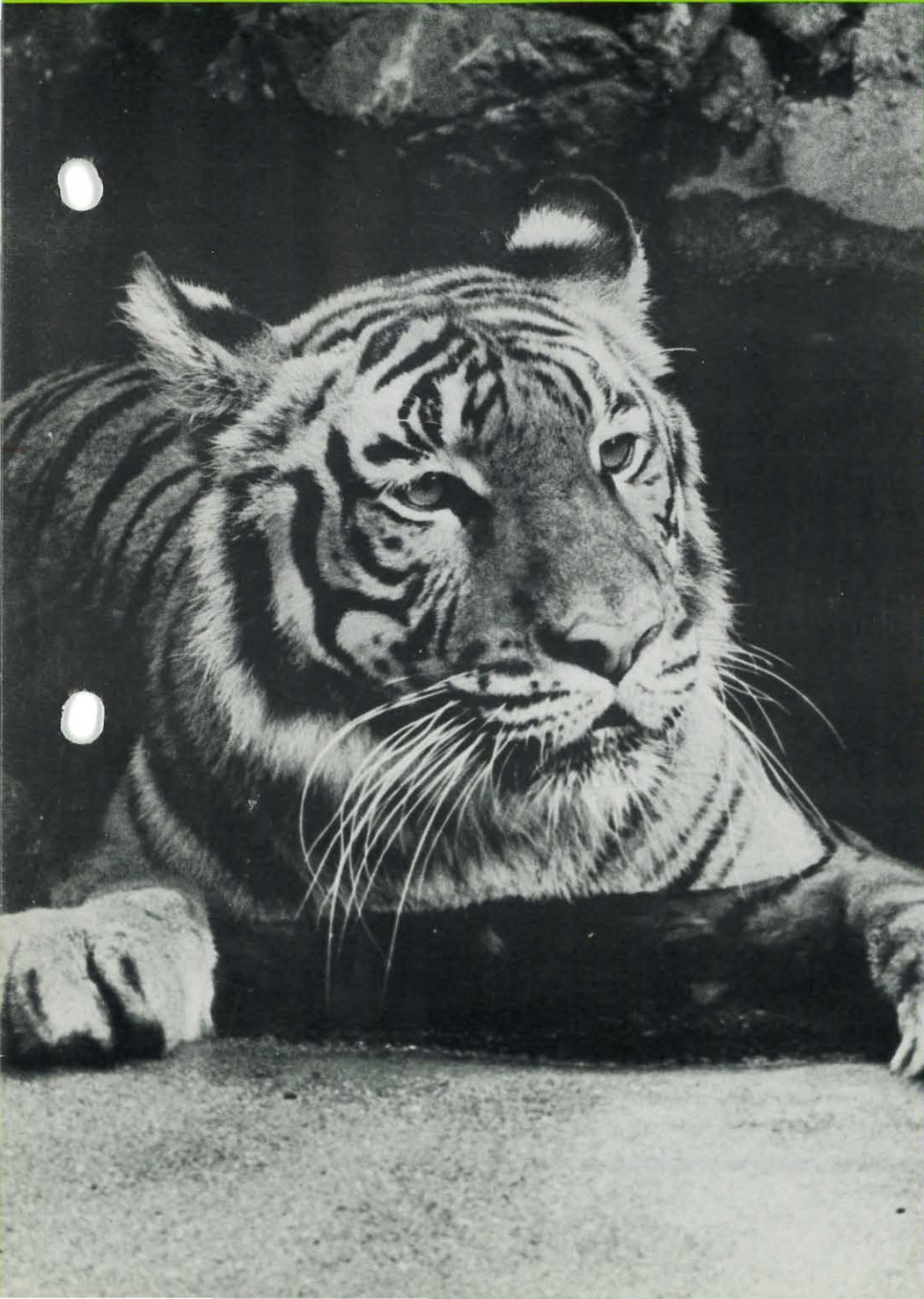


なきごえ



1977

8

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

西垣 正 行



皆誰も、幼い頃生き物が好きであったのが、もの心つく中学校に入る前後から、それぞれ好きな道が違って行くようです。ただ私は幼い頃の動物好きが今も続いているだけです。幼稚園から小学校初期にかけては、トンボ、セミ、チョウチョウ、バッタ、ホタルなど虫捕りが好きでした。大阪市の南部玉出で幼少期を送りましたが、昭和10年頃のこのあたりは今とは全くイメージの違う都会の風景でした。

人糞の肥料ただよう野菜畑や、原っぱ（空地の野原）がいたる所にあり、東へ1キロ程行くと林や森があちこちにあり、西へ少し行くとそこは一面の葎や水生植物の茂る水たまりが広々と続いていました。その上、人も少なく、車や公害、農業もなかったせいで、昆虫類が無数にいました。原っぱをかけ廻ると足元からバッタが次から次へ跳び出し、夕暮れ時には、トンボが空一面に東から西へ移動して行く、それが1時間も2時間も続くのです。春から秋の終わりまで、当時の都会子は皆一様に虫捕りに明け暮れたものです。とりわけ私は虫が大好きで、夜になっても帰って来ない日がたびたび、親によく心配をかけました。昼のセミ捕り、夕方のトンボ、晩の食事を忘れて、ひき続きホタル捕りに夢中になっていたからです。一つの事に熱中する人を「ムシ」とよ

く言う。「この子はさっぱり勉強に熱中せんと虫にばかり熱中して、ちょっと勉強の「ムシ」になってくれたらなー」と、母親は嘆きながら、笑の文句にしたそうです。小学校4年の頃、今住んでいる堺の南部に引越しましたが、前の周囲とは比較にならぬ自然がいっぱい、虫はもちろん、鳥も豊富、色々大小羽根色の変った鳥が目につき出し、鳥にも興味が引かれるようになったある日、ウグイスが部屋へとび込み、何とかかかそうと工夫して餌づけに成功、飼い始めたのが、虫に代わって野鳥に興味を持ちはじめた最初です。それからは野鳥のヒナを求めて歩き廻り、ヒナを捕えてきては成鳥まで育て、逃してやる事を何年か続けました。しかし、時には、死なしてしまうことがあり、そんなときは、なんとかハク製標本にして残したいと色々やってみましたが、指導者もなく、何度も失敗を繰り返していました。昭和23年、ハク製作りを専門にやっている職人がいるというのを聞きました。当時、私は師範学校3年でしたが、11月のある日、事故死したモズを入手し、ハク製にしてもらいました。できあがった標本は生きた姿そっくりです。幼い頃から、目に見えて失われて行く自然を見つめていただけに、ようし！野鳥の生態研究と合わせて、今がハク製を残すチャンスだと思い、それ以来30年、特別捕獲許可をうけてこの事を続けました。数年前、自分でハク製を作り始めてからは、京阪神の鳥獣商にたのんで、死体をゆずりうけ、外国産の鳥の標本も集めるようになりました。現在約400種、そのうち外国産150種、550点、ハク製を保存しています。一方、13年前、南大阪野鳥研究会を創設し、会員グループと共に、大阪・奈良・和歌山、各府県に住んでいるワシタカ科の生態研究にも大いに頑張っています。

(大阪市立本庄中学校教諭)

なきごえ8月号もくじ

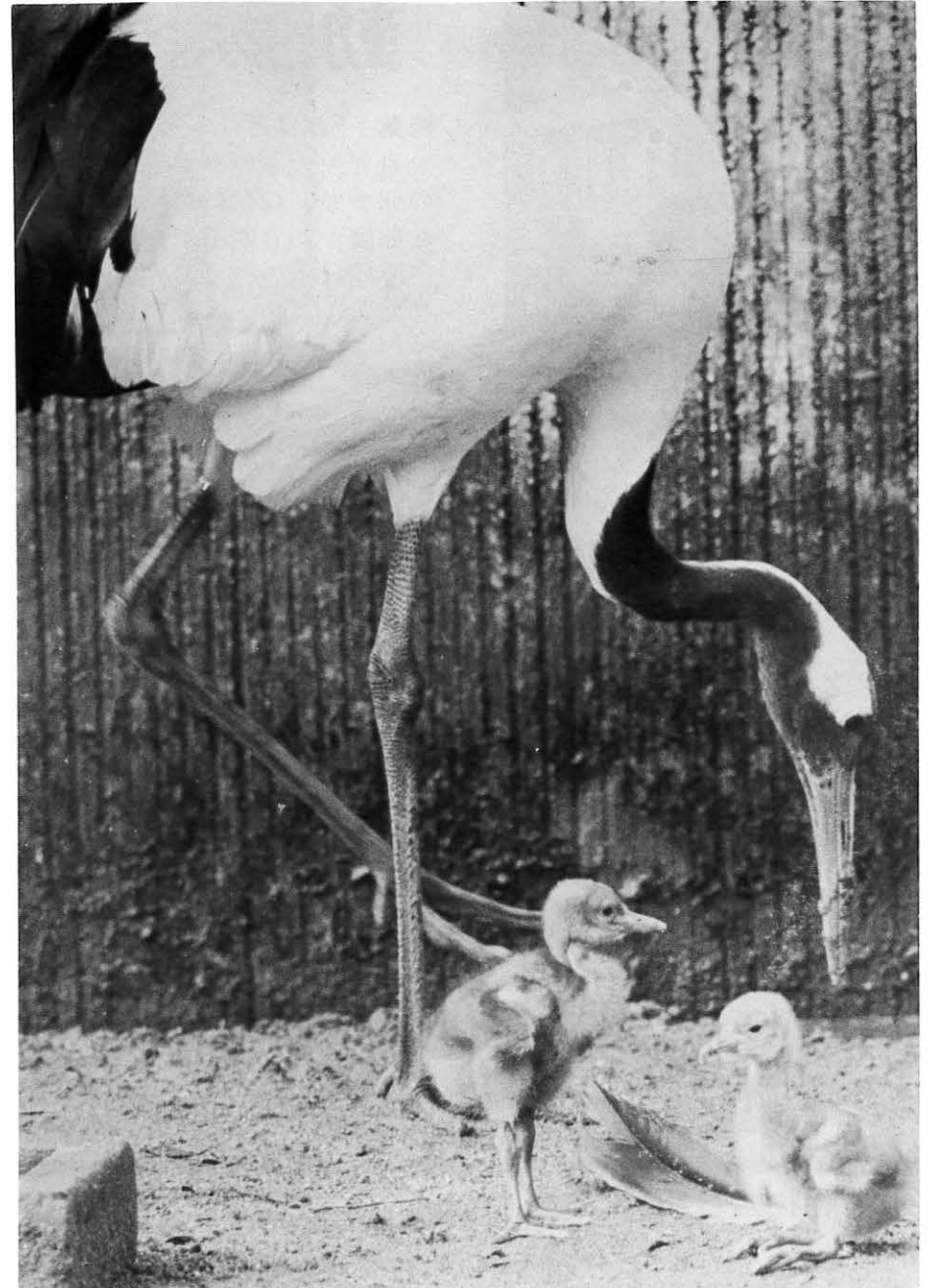
動物と私	2
タンチョウの誕生	3
動物園グラフ	4・5
アジアの2、3の動物園を見て(II)	6・7・8・9
獣医室から⑩“動物の消夏法”	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“トラの水浴び”

残暑お見舞申し上げます。暑さのため、水風呂に入ったこんな格好で失礼します。

(撮影：宮下 実)



“タンチョウの誕生”

タンチョウが6月28日、30日各1羽ふ化しました。ヒナの成育は順調で、日毎に大きくなっています。母親は昭和49年に中国の北京動物園から当園にお嫁入りしたもので、昨年の1羽に続く日中Ⅱ世の誕生です。 *ふ化日数32日、31日* (撮影：宮下 実)

動物園グラフ

特集：「とりどりの卵」展

世界一大きいダチョウの卵から最小のハチドリ
の卵まで、124種347点の大きささまざまな卵を集め
た卵展が、北園展示館で開催されています。

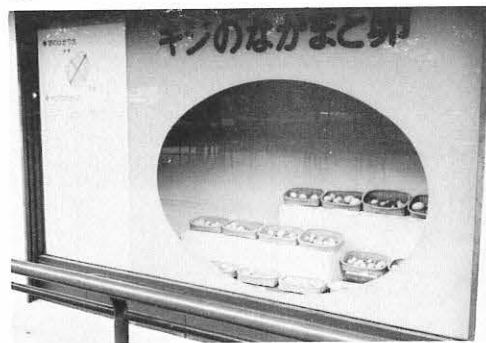
今回はこの卵展の内容をグラフで特集してみま
した。



卵展全景
↑
6つのコーナーに分かれています。



第1室
↑
一番大きなダチョウの卵と最小のハチドリの卵。



● 卵のはかり方

長軸
短軸

● キジのなかまと卵

種類	長さ	幅	重さ	産卵数	産卵期	産地
ヤマドリ	8.5	4.5	40	7-11	26-29	日本
ニホンキジ	4.1	3.2	22	7-12	24	日本
ウズラ	3.8	3.3	7	7-12	18	アジア
キンケイ	4.3	3.3	26	8-13	22-24	中国
アサギドリ	5.5	4.0	44	6-11	22-24	オーストラリア
ハシカキ	4.9	4.0	45	7-12	25	中国
コウライキジ	4.8	3.8	30	7-12	22-26	中国
オオノキキジ	4.7	3.5	31	7-12	22-26	中国
ハイロキジ	4.8	3.4	29	7-12	22-26	中国
カラヤマトリ	4.3	3.3	28	7-12	22-26	中国
キレンケイ	4.3	3.4	26	7-12	22-26	中国
ニホンキジ	4.7	3.8	33	7-12	23-25	中国
ニホンキジ	8.5	4.5	71	7-12	28	中国
セイサン	8.5	5.0	77	4-8	24-25	オーストラリア
マフシキジ	7.0	5.8	130	4-8	21	オーストラリア
ハレノキジ	7.2	5.3	119	4-8	27	オーストラリア
シベキジ	6.0	5.1	91	8-11	28	中国

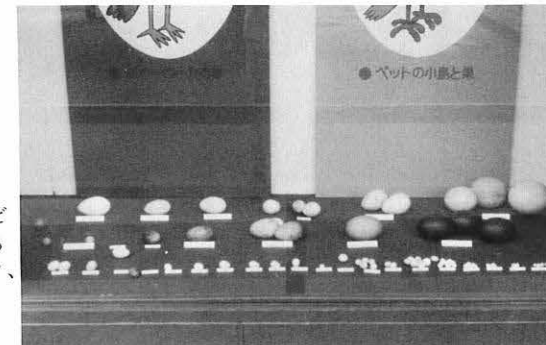
第2室
↑
エボシキジ、ミノキジ、
ベニジュケイ、ウチワ
キジなど珍卵多数。



第3室
↑
卵の発生過程及び卵の色、形、産卵数。



第6室
→
ペットの小鳥の卵
文鳥やカナリアなど
のペットの小鳥から
コンドル、ペンギン、
ライオン、ヒクイ
ドリの卵まで陳列。



第4室
↑
ふ卵器の構造と卵のかえし方及び抱卵
及び抱卵期間。

第5室
↑
これは何の卵?
ガン、カモ、フラミンゴ、ハトなど
の卵とその大きさ。

● 鳥の卵(キジ類以外)

種類	長さ	幅	重さ	産卵数	産卵期	産地
カナダガン	84	59	150	4-8	28	カナダ
ペロロアキジ	93	57	134	1	26-28	オーストラリア
シユバシコウ	88	53	105	4-6	26-31	ヨーロッパ
コブハクチョウ	118	80	375	4-8	38-41	ヨーロッパ
クワガタキジ	104	66	209	4-8	33-35	南アメリカ
エミュー	121	82	450	10-20	48-50	オーストラリア
ダチョウ	170	135	1400	12-15	41-43	アフリカ
アフリカキジ	70	52	90	2	42	アフリカ
キリンフラミンゴ	96	55	126	1	27-34	チリ
ジュスカウバト	31	24	8	2	18	アフリカ
ハト	42	29	18	4-8	18-20	日本
オオヅル	92	61	195	2	31-34	インド
マゼランガン	79	42	94	4-8	30-31	南アメリカ

6・7月の動物園日記

- ゾウの春子が鼻を少し傷つけたので消毒してやりました。
- ヤギの仔が生まれました。
- マクジャクのメスが出血性盲腸炎で死亡しました。
- キジ舎のキジ52羽に寄生虫の一斉予防を行いました。
- カニクイザル一番の寄贈がありました。
- クロヒヨウの赤ちゃんが生まれました。
- 母親がうまく育てないのでクロヒヨウの赤

- ちゃんを引き取り人工哺育にしました。
- スプリングボックに♂の赤ちゃんが生まれました。
 - クロヒヨウの赤ちゃんはミルクをたくさん飲んで元気一杯です。
 - エゾシカの仔が生まれ、オスの仔でした。インドニシキヘビが回虫症の為死亡しました。
 - エゾシカの仔が生まれました。
 - エゾシカとハナジカの仔がこの日も生まれ、タンチョウのヒナも一羽、ふ化しました。ふ化日数は32日でした。
 - タンチョウの二羽目のヒナもふ化しました。

- こちらは31日のふ化日数でした。
- フンボルトペンギンが食欲不振でやせてきたので治療を始めました。
 - タンチョウに続きオオヅルのヒナもふ化しました。これはふ化日数は32日でした。
 - ケナガモルモットの寄贈がありました。
 - イエローアナコンダが2頭の仔を産みましたが、惜しくも死産でした。
 - バイサオリックスのオスが斗争して角を傷つけたので治療してやりました。
 - ニューギニアクロコダイルが死亡しました。

- エゾシカとハナジカが生まれ、これでエゾシカ4頭、ハナジカは3頭の仔が生まれました。
- ハナジカが1頭生まれ、これでハナジカの赤ん坊は計4頭になりました。ホッキョクグマが右前肢を腫らせ、ピッコをひいているので治療してやりました。
- ブラックバックとエゾシカに仔が1頭ずつ生まれました。
- シマウマが回虫をわかしていたので駆虫しました。

アジアの2、3の動物園を見て(II)

樽本 勲

インド、カルカッタ動物園

3月20日朝ダッカを発って、その日昼にはカルカッタに入った。空港から市内に入ると市街は大変きたなく、ごみごみしていた。日曜日ということでもあり暑い日中はあまり人は街には出ていないが、夕方から夜中にかけては大変な数の人々が市街をうめつくすのだ。ツアーの一行はホテルに到着後、インド博物館や市内観光に出発したが、私は、カルカッタの日程が1日しかないの、また、単独行を願い出て、ここの動物園を訪問することにした。

ホテルからタクシーを拾って、どの方向に運ばれたのか割にきれいな広い公園の向うに官庁街らしきビルのあるところなどを走って20分もすると動物園の正門前についた。



カルカッタ動物園正門

切符売場はバラック建てのような粗末なもので、その前の路上には入園者目あての露店がたくさん出ているのは、天王寺動物園も変わらないと思った。

門の横に動物園事務所があり、園長を訪ねたがそのときは不在だったので、先に園内を見ることにした。園内はさすがに100年余も前からの歴史があるだけに樹木は大きく落ち着いた感じであった。園内にはカンナの赤い花が咲き、ブーゲンビリアの紫の花も色どりをそえていた。

正面から入って左側よりジャッカルなどの入った小獣舎の古い檻があり、続いてカンガルー舎や広い芝生の動物柵が並んだ場所に出た。ここは、エラン



正門を入ったところ

ドやニルガイ、鹿などの動物が入っていた。それにアネハヅルとオオヅルやアマサギも同居しており、のんびりした風景を見せていた。さらに大きなガラパゴスゾウガメ2頭もニルガイと同居して、のそりのそり移動していた。



小獣舎前で



ゾウ舎は大きな柱の上に簡単な屋根をつけたような建物で、3頭の象を繋いで見せていた。さすがにゾウは、本場でも人気があるのか多くの人々が集まっていた。前に出てのぞいて見たら、コインを象に

投げると上手に鼻先で拾って、そばに座っている老人に渡しているのがおもしろいだろう、人々が盛んにコインを投げていた。ゾウに餌代をかせがせているのか、子供動物園内の子象も同じことをしていたのには驚いた。



ゾウ舎

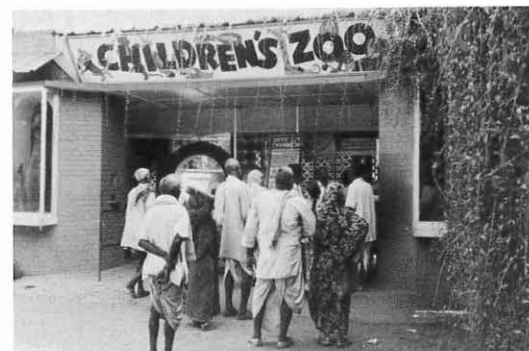
とにかく子供動物園に入るのにまたお金を払い、ホワイトタイガーのところも別料金となっており、なりふりかまわず収入を上げる努力をしているようでもあった。

子供動物園は、園内の奥まったところにあり、別料金を払って入場した。小鳥のケージやうさぎモルモットなどの小さな獣舎が続くありふれたものであったが、入園者が別料金で制限されるのがいいのか落ちついたふん囲気で、木や花の手入も行届いて美しかった。

インドサイを見たのは、なんと子供動物園に入ったところであった。このサイ舎の放飼場はかなり広いもので、一般の園とも接してはいるのだが、実際に身近に見られるのは子供動物園に入ってからという仕かけになっているようだ。そこに木陰があったり、餌の青草をこの付近で常にやるようにしているのだから、サイはいつもこの場所にとどまっているらしい。

インドサイは全部で3頭いたが、1頭は分離してあった。3頭とも若そうな立派な個体であった。

ここを出ると、次に本命のホワイトタイガーのところ、ゲートでまた別料金を払って入場した。両



子供動物園入口



子供動物園内



子供動物園 うさぎ舎



インドサイ

側に高い鉄格子の檻がずらりと並んでいて、それぞれ個体の名札があった。そして、系譜というべきものが掲げられていた。

1963年に2頭のホワイトタイガーを入園させてから現在は8~9頭のホワイトタイガーを展示している。ホワイトタイガーは1951年にモーハンというおすを野生で捕えて、これにラドハという普通の色のめすトラをかけ合せて次々に作り出したとか。今では、インドの首都デリーにも9頭ほどの他30頭近くのホワイトタイガーがいるという。



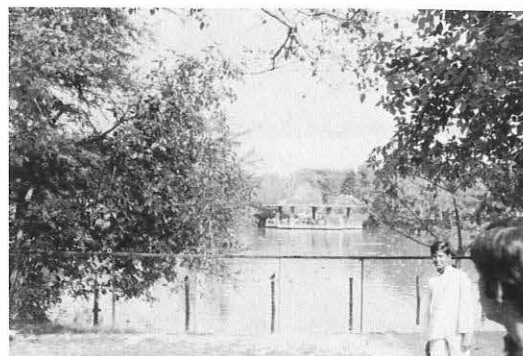
ホワイトタイガーの檻

しかし、なかなか門外不出で、万国博に一度1頭がデリー動物園から大阪に来たが、万博がすむとすぐに持ち帰ってしまった。ちなみに後でカルカッタの園長にお会いしたとき、聞いてみたら、インド各地の動物園に充分行きわたってからでないとなかなか外国へは出せないだろうし、園の判断では、この種の動物の移動はできないとのこと。この園も州立とかで、国の中央統制が厳しく動物にまで反映しているということが分った。もちろんインドサイもわかりと思われる。

ホワイトタイガーは、どれも暑さで檻の奥の方でごろごろ横になっていたが、私が、柵の中に入って写真を撮りはじめると檻の手前まで寄ってくるものもあった。土間の運動場で、奥の寝室と思われるところの間には格別の仕切りはなく、アケアケという状態であった。いずれのホワイトタイガーも薄い黄色がかかった白色で、毛づやも格別良くはなく、

立派だなあーとほれ込むような個体はいなかったように思う。

園の中央に大きな池があり、ぐるりには、かなり大きな樹木が植って落ち着きを見せている。この池を中心に動物舎があるように思われた。池には数千羽と思われるカモが飛来し、自由に飛び、泳ぎ回っていた。池の一部には、この景色を見るように観覧小屋が張り出して造っており、人々はここで昼の陽ざしをさけてゆっくりとカモをながめているようであった。



池の一部の岸にはオオヅルや、クロクビコウ、インドトキコウなどもカモといっしょに放してあった。

少し行くと階段を上って上からのぞき込み式の大きな放飼場があり。ちょうどカモシカ園の半分くらいの広さがあるのがカバ舎であった。中に大きなプールがあり、3頭のカバが背中を出していた。一部、予備の広場も隣接して造っており、カバ舎としては少し大きすぎるくらいのものであった。



カバ舎

ここから少しのところ、円型の大きな動物舎があり、インドライオンがいた。さすが1世紀も伝統のある動物舎らしく重厚な建物で、高い天井まで鉄格子のある動物舎であったが、中の動物の写真はとりづらく、インドライオンも見にくかった。また、この動物舎の一部の部屋にタイゴンがいた。1972年におすのベンガルタイガーとめすのアフリカライオンとの間に初めて1頭のめすタイゴンが生まれたということで、続いて1974年にも同じ両親からめすのタイゴン1頭が生まれたとのこと。いずれもめすなのでたてがみはなく、めすライオンに薄いトラの斑をつけたようなものであった。しかし、私は、ここでこんな珍獣に出会うとは知らなかったので、少し興奮気味で何とか写真に撮ってやろうと檻に近づいたが、一枚のスライドを撮ったら、ストロボの光で目をさまし近よってきたタイゴンに威嚇されて格子の前をうろうろされて2枚目のシャッターはついに押せなかったのは、今でも残念に思っている。



タイゴン舎前

アフリカライオンの放飼場もこのすぐ近くにあって、古びた城壁様のたたづまいとこんもりとした木に緑の芝生、深いモートのコケは古くからこのような放飼場式の動物舎が取り入れられていたのだと感じさせた。

大阪をたった時は、まだ緑も出ていない時だったので、なおさらそう感じさせたのだろうが、バンガラディシュのダッカ動物園訪問の時もそうだったが、今回も、緑と完全にとけあった動物舎のようすには

そこにいる動物の居心地もさることながら、訪れる私たちにも一しお心のやすらぎを感じさせたものだった。



ライオン舎

この園にはまた、ブラックバックの白変種がいた。ブラックバックは、インド産のカモシカだが、白変種は大変珍しいと思う。

園内をかけ足で見て回ったが、さすが1世紀以上の伝統のある動物園という感じで、動物の種類も哺乳類が104種、鳥類が225種、爬虫類27種、計386種と豊富で、じっくり見ていく時間さえあれば、もっと興味ある動物に行きあたったのではないかとと思われる。

最後に、事務所に寄って園長にお会いしたが、若いエリート官僚という感じで、州の役人が配属になっているように思われた。天王寺動物園のガイドブックをみやげにあげたら大変喜んでくれたが、何しろ頼りない英会話なので、つきつめた動物の話もできずに早々に退園した。しかし、カルカッタは暑く夕暮れの下町は人で人でどこからこんなに人が出てきたのかと思われるくらいの人洪水、貧しさが目立つ街の風景だが、動物たちは自由で、充分保護されていたので、何か満足感が今も残っている。

(動物園主査)

獣医室から ⑱

動物の消暑法

暑い暑い夏の到来です。温度計の上昇につれて動物の食欲もおち気味。人間ならクーラーの入った部屋に居て冷たいものでも食べれば気分もすっきりするのですが、動物の場合そうもいかず、動物達は暑い夏の消暑にけん命です。夏の病気というと、まずあげられるのが熱射病、日射病ですが、これの対策はまず直射日光を防ぎ、風通しをよくすることが第一です。そのために、よしずを張ったり、獣舎の屋根に藤をはわせたりして日陰を作っています。



風通しをよくするには、ガラス戸をはずして網戸、格子戸に代えたり、窓、扉の開放、あるいは扇風機、換気扇を使ったりして、いろいろ工夫をしています。第2の対策としては、飲水をきらさず、水浴の好きなものにはプールに水を張ったり、散水をしてできるだけ涼しくしてやることです。動物舎で冷房装置がはいっている所はペンギン舎とキーウィ舎だけで、ここの動物達はまずまず夏を快適に過ごすことができます。我々の行える環境整備はこれ位で、あとは動物達自身で消暑法を考えてもらわねばなりません。



涼を求めるための最も簡単な手段は水浴びですが、動物の中でも特にこの水浴びの好きなのが、ゴリラ、トラ、ヒグマ、ツキノワグマ、パーバリーシープ、ゾウ、バクなどで、折をみてはプールに入り、一時の涼感を楽しんでいます。パーバリーシープなどは12頭もいるのですが、プールが1つしかないため列を作ってプールに入る順番を待つあります。



水浴をあまり好まない動物で、例えばラマやシカなどでも、足だけを水の中に入れて立たずにいる風景をよく見かけます。足を冷やすだけでも多少の暑さをしのげるのでしょう。水浴をしない動物の避暑法は、藤棚やよしず屋根の下の涼しい風の通る所で昼寝をすることで、カンガルーやカモシカなどは



日中の暑いさかりには、日陰で昼寝ばかりしています。これも夏バテを防ぐ一つの方法かもしれません。今年の夏も暑さでダウンする動物がないことと早く猛暑の去ることを願って。

(飼育課：宮下 実)

動物園ニュース

☆タンチョウ、オオヅルの誕生

6月28日、30日とタンチョウが誕生しました。昨年も1羽誕生しており、2年連続のおめでたです。ふ化日数は22日と31日で、ヒナ



☆ホッキョクグマに氷のプレゼント

暦のうえで大暑にあたる7月23日、135kgの氷柱2本を、暑さで少々バテ気味のホッキョクグマ2頭にプレゼントしま



夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



近鉄百貨店

カは6月27日、28日、7月8日、13日と各1頭、計4頭、ハナシカは6月28日、7月5日、8日、10日、22日、25日と各1頭、計6頭がそれぞれ誕生しています。



◎お知らせ◎

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。11月までの休園日は下記の通りです。

8月15日、9月19日、10月17日、11月21日

開園時間は9時半～5時で、4時半に切符売止めになります。

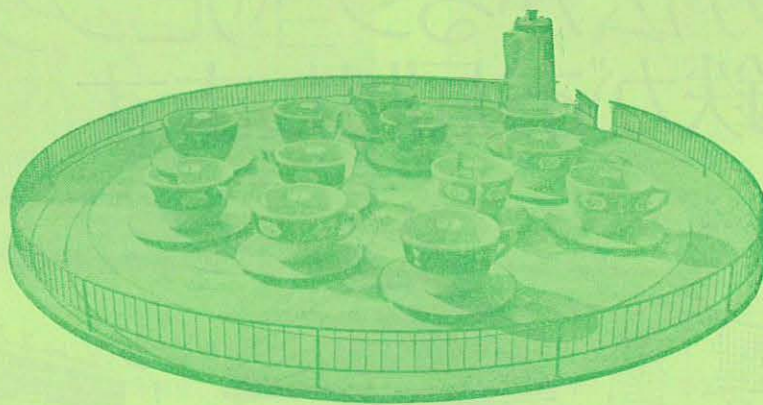
獣医室から ⑱

動物の消暑法

暑い暑い夏の到来です。温度計の上昇につれて動物の食欲もおち気味。人間ならクーラーの入った部屋に居て冷たいものでも食べれば気分もすっきりするのですが、動物の場合そうもいかず、動物達は暑い夏の消暑にけん命です。夏の病気という

涼を求めるための最も簡単な手段は水浴びですが、動物の中でも特にこの水浴びの好きなのが、ゴリラ、トラ、ヒグマ、ツキノワグマ、パーバリーシープ、ゾウ、バクなどで、折をみてはプールに入り、一時の涼感を楽しんでいます。パーバリーシープなどは12頭もいるのですが、プールが1つとまじり

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番



日中の暑いさかりには、日陰で昼寝ばかりしています。これも夏バテを防ぐ一つの方法かもしれません。今年の夏も暑さでダウンする動物がないことと早く猛暑の去ることを願って。

(飼育課：宮下 実)

動物園ニュース

☆タンチョウ、オオヅルの誕生

6月28日、30日とタンチョウが誕生しました。昨年も1羽誕生しており、2年連続のおめでたです。ふ化日数は32日と31日で、ヒナの成育は順調です。父親は昭和24年に入園した飼育歴28年の長寿で、母親は昭和49年、中国の北京動物園からお嫁



入りしたもので、日中Ⅱ世誕生が示すように夫婦仲はすこぶる円満です。タンチョウのふ化に続いてオオヅルも7月2日、1羽誕生しました。ふ化日数は32日で、タンチョウのヒナに負けじと、このオオヅルのヒナの成育も良好です。オオヅルはここ3年連続して1羽ずつ誕生しており、繁殖も軌道にのった感じです。

☆カモシカ園出産ラッシュ!



カモシカ園はスプリングボックの出産に続いて、ブラックバック、エゾシカ、ハナシカが相ついで誕生し、

今やベビーブームといったところです。スプリング

ボックは6月21日、7月16日に各1頭誕生しており、ブラックバックは7月13日、1頭誕生しました。エゾシ



カは6月27日、28日、7月8日、13日と各1頭、計



4頭、ハナシカは6月28日、7月5日、8日、10日、22日、25日と各1頭、計6頭がそれぞれ誕生しています。

☆ホッキョクグマに氷のプレゼント

暦のうえで大暑にあたる7月23日、135kgの水柱2本を、暑さで少々バテ気味のホッキョクグマ2頭にプレゼントしました。大きな冷たい氷柱に涼を求めて、ホッキョクグマも大喜びでした。も大喜びでした。



☆ふ卵器運転終了

7月19日、ふ卵器の運転を終了しました。今年は3月24日から約4ヶ月運転し、23種 666個の卵を入れましたが、232羽のヒナがかえりました。カラヤマドリを始め、ニジキジ、オナガキジなどのヒナが元気に育っています。また、例年ふ化数の少なかったカナダガンが9羽、マクジャクが14羽ふ化しました。

☆第3回サマースクールの開講

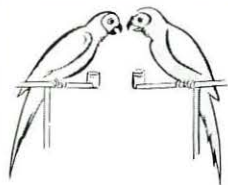
7月24日～8月1日の9日間、小学生4～6年生を対象としたサマースクールが開講されました。定員210名のところ応募者が605名もあり、抽選により参加者を決定しました。第1日目は大阪市立自然史博物館で動物の骨格を調べたり、スケッチをしたりして、第2・3日目は動物園で動物の観察や飼育の勉強などをしました。又、このサマースクールのお手伝いに約60名のボランティアの方々が参加されて、引率、指導など幅広く協力して頂きました。



◎お知らせ◎

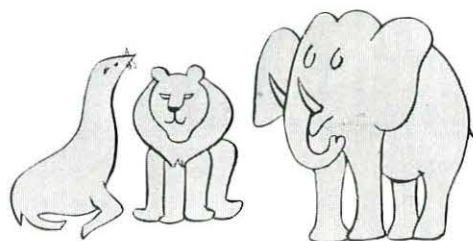
動物園の休園日は毎月第3月曜日です。11月までの休園日は下記の通りです。

8月15日、9月19日、10月17日、11月21日
開園時間は9時半～5時で、4時半に切符売止めになります。



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル